

1. 教育の責任

通学課程および通信教育課程における以下の科目を担当（2024 年度）。学生自身のキャリア形成を促すとともに、他者のキャリアを支援するスキルの修得を目指す。また、社会調査士資格取得のための講義と演習科目も担当する（＊印）。（通学課程）名著・名作で人生を考える、キャリアの心理学、実践演習キャリアⅡ、職業選択演習、職業選択演習 応用、キャリアマネジメント・ベーシック（通信課程）キャリアの心理学、地域デザイン演習＊（以上スクーリング）、調査研究方法Ⅰ＊（分担・印刷授業）

2. 教育の理念

柔軟かつ自律的にキャリア形成ができる人材を育成する。変化が激しく、多様化が進む現代社会において、創造的に自身の進路を切り拓く勇気や能力を身につける。また、他者のキャリア支援ができる知識とスキルを修得する。

3. 教育の方法

講義（通信制スクーリング含む）では、難解な理論もできるだけ平易に分かりやすい説明を心掛けている。授業には既製のテキストを用いず、すべて自身が作成したパワーポイントやワークシートなどの教材を用いている。また、学生が実感を持って理解できるように、理論を自身で応用するためのワークシートを開発したり、実際の事例を紹介したりするように努めている。演習形式の授業では、学生と教員間はもちろんのこと、学生相互が協力的な雰囲気のもと、活発な意見交換や共同作業ができるような関係づくりを支援するよう心掛けている。一部の授業では、企業や社会人を招いての講義や実習（たとえば「職業選択演習」での面接演習）や、企業や地域活動団体に出向いての観察やインタビュー（例：「キャリアマネジメント・ベーシック」や「実践演習キャリアⅡ」での企業訪問、「地域デザイン演習」での船坂地区訪問）といった手法も用いている。授業形式を問わず、課題や試験については、単に知識を暗記するだけのものではなく、各種の理論をふまえながらも自分自身の考えを深めたり、内省したりすることができるものになっている。

4. 教育の成果

授業アンケートの結果として、定量的な面では、各項目とも本学の平均値と同等もしくは少しばかり上回る程度である。定性的には、とくに大きな不満などは見られない。一方で、独自のアンケートや意見聴取を行い、授業改善につながるものについては積極的に取り入れている。学生からの評価としては、「就職活動を経験してみて、授業で学んだことが役に立った」（通学制）や「これまでのキャリアや人生を整理することができた。今後の指針を考えるうえで役に立った」（通信制）という声をよく聞くことから、実際に活用できることを一定程度は教授できていると考えている。

5. 改善への努力と今後の目標

キャリア論の分野は日進月歩で進化しており、多様な研究成果が提示されている。それに対してキャッチアップしたり、自身も新たな研究成果を社会に示したりする努力を続けてきたが、必ずしも十分ではない。また、教授法についても、IT の活用はもちろんのこと、心理学などの新たな知見を活かした学生とのかかわり方などが開発されていると思われるが、それについても理解は不十分である。今後も、内外の研修会や学会などへ積極的に参加して最新の知見やスキルを得るとともに、研究時間を確保して、成果をあげたい。

【添付資料】

なし